



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第42号

目次

- 「第13回3大学国際ジョイントセミナー・シンポジウム2006」を開催
- 中部電力との環境報告書意見交換会
- 伊賀市で学長が講演
- 「平成18年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」が開催
- 名誉教授懇談会
- 「知的財産活用シンポジウム」を開催
- JSTSORSST発展研究 船岡正光研究プロジェクト公開シンポジウムを開催
- シンポジウム「津市の多文化共生を考える」が開催
- 「秋のミニオープンキャンパス」を開催
- フレンドシップコンサート
- 発明コンクール
- 「リーディング産業展みえ2006」
- 「実験動物感謝式」を挙行
- 大学院生物資源学研究所長を選出

「第13回3大学国際ジョイントセミナー・シンポジウム2006」を開催

10月29日-11月2日の5日間、三翠ホールにおいて、8カ国21大学から100名を越える学生や教職員の参加者を迎え、論文発表と交流を2本の柱とした、さまざまな催しが行われました。ホスト校の本学からは、各学部代表教員と国際交流センター専任教職員から成る実行委員会と、80名近い学生が結集した学生実行委員会が共同で半年にわたって準備と運営に当たり、大会は好評を博しました。来年度はチェンマイ大学がホストとなります。三重大学代表団への参加希望者は、このプログラムの公用語である英語による論文発表力とコミュニケーション力を磨いておくことが肝要です。

中部電力との環境報告書意見交換会

10月25日、三翠会館にて「CSR報告書」を作成・公表している中部電力(株)と「環境報告書2006」を作成・公表した本学による、「環境報告書」についての意見交換会が開催されました。中部電力から経営戦略本部の小林CSR推進グループ長ら7名と、本学から渡邊理事（総務担当理事）や環境ISO推進室長をはじめ教職員8名と学生委員会の3名が出席し、双方の報告書に関する意見交換を行いました。かねてから中部電力は環境問題に熱心に取組んでおり、長い実績のある中部電力出席者から今後の改善に向けて適切な助言や貴重な意見をいただくことができました。



伊賀市で学長が講演

11月12日、上野フレックスホテルにて、上野商工会議所60周年記念式典が開かれ、豊田学長が「三重大学と伊賀の連携について」という講題で記念講演を行いました。はじめに、三重大学がこれまで果たしてきた産官学連携への取組を説明した後、本学と伊賀との連携の話題に移り、3年前から三重大学が中心になって開催している「三重大学・皇學館大学文化フォーラムin伊賀」と、現在「三重大学伊賀拠点設置推進委員会」で検討中の伊賀拠点作りの今後についての説明があり、自治体、企業、そして大学の三者が緊密なコミュニケーションをとり、それぞれやるべきことを果たす必要性を訴えました。約300名の上野商工会議所のメンバーおよび伊賀市の関係者らは熱心に耳を傾けていました。

「平成18年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」が開催

11月12-13日、パシフィコ横浜において文部科学省と(財)文教協会主催による標記フォーラムが開催されました。平成15年度から進められている大学教育改革支援の諸プログラムが一堂に会した合同フォーラムの開催は初めてのことで、この事業の現状と今後の在り方や見通しについて、基調講演、パネルディスカッションおよび各プログラムに関する分科会が行われました。また、同時に今年度選定された各大学の取組のポスターセッションが行われ、本学からは特色G P「海外医学部と提携した臨床医学教育」、大学院G P「地域と時代に応える医学・医療研究者の養成」、現代G P「教育実践力の育成と学校・地域の活性化」からそれぞれの担当者が参加しました。

名誉教授懇談会

11月17日、本学名誉教授との懇談会が、学長・役員・部局長等の出席のもと平成16年4月の法人化移行後初めて、ホテルグリーンパーク津で開催されました。豊田学長の挨拶に引き続き、「三重大学の現況について」と題して変貌する本学の紹介と、名誉教授の皆様方に本学への支援および協力の要請がありました。続いて、矢谷前学長の乾杯の音頭により懇談に入り、最後に菅原前副学長の激励の言葉と一本締めで幕を閉じました。

「知的財産活用シンポジウム」を開催



10月26日、三翠ホールにおいて、標記シンポジウム「大学等の知的資産を核として三重県産業の振興を考える」(主催：三重大学、共催：特許庁、三重県等)が開催され、産学官から115名の出席がありました。基調講演「地域社会における知的財産の役割-知的財産立国に向けて-」(荒巻慎哉特許庁大学等支援室長)「中部経済産業局知的財産本部の取り組み」(佐野元次中部経済産業局特許室長)に次いで、県内企業、三重県、本学から6名のパネリストが参加し事例報告および討論が行われました。①三重県産業の振興のために、②産学官の共通認識、③関連組織の一体化・一本化促進について、活発な議論がなされ、出席者も熱心に聞き入っていました。

JSTSORST発展研究 船岡正光研究プロジェクト公開シンポジウムを開催

10月26-27日の2日間、三重大学東京オフィス(コラボ産学官プラザ in TOKYO, 船堀)において、標記シンポジウムが『森林から化学工業へ～分子レベルでの新しい接点～』というテーマのもとで開催されました。持続的な社会を導くための要素技術について、活発な討論が展開されました。27日には森野理事(研究担当)も出席の中、事業化の現状と今後の新しいコンソーシアム構想についての紹介があり、両日あわせて約200名が参加し関心の高さが伺われました。

シンポジウム「津市の多文化共生を考える」が開催

11月3日、津リージョンプラザにおいて、津市・津市国際交流協会主催の標記シンポジウムが開催されました。アンジェロ・イシ武蔵大学専任講師による基調講演に続いて行われたパネルディスカッション(コーディネータ：亀岡国際交流担当理事、パネリスト：アンジェロ氏、上田富和・三重県国際室長、谷口ユキ・NPO法人アポーヨブラジル副理事長、中村未紫子・津市高茶屋小学校国際化対応教員、渡邊信一郎・津市助役)では、三重県の在住外国人の現状や永住外国人の子供たちを取り巻く小学校の環境など、多文化共生に向けた問題点と今後必要となる施策等を中心に、奥深く幅広い議論が展開されました。

「秋のミニオープンキャンパス」を開催

11月5日、本学においては初めての企画となる標記イベントが三重大学祭にあわせて開催されました。午前中の全学企画では、『私の人生選択ー医学研究者への道ー』と題した豊田学長による講義や「大学紹介ビデオ」の上映を行いました。三重県、愛知県、和歌山県等からの高校生141名と保護者を合わせ約200名の参加がありました。午後の学部企画では「体験授業」、「ロボコン」等が行われ、全学の「入試相談コーナー」にも多数の参加があり、大学祭とともに盛況時に終了することができました。

フレンドシップコンサート

11月6日、三翠ホールにおいて河南省文化使節団による標記コンサートが三重地域留学生交流推進会議・三重県日本中国友好協会・三重大学の主催で開催されました。三重県日本中国友好協会が、三重県・河南省友好提携20周年を記念し、同使節団8名を招請して三重県の各地で演奏会を行う事業の中で、「特に留学生に聞いてもらいたい」との意向で開催されました。参加者は本学留学生を中心とする131名で、中国民族楽器による中国古来の曲に加え、「昴」など日本の曲も数多く、素晴らしい演奏に楽しいひとときを過ごしました。



発明コンクール



11月9日、メディアホールにおいて学内学生発明コンクール(現代/知財教育GP主催)(代表：松岡守教授・教育学部)が開催されました。今年度は工学部の井上剛さんに最優秀賞、他6名に佳作賞が贈られました。続いて、天津師範大学の周紅蕾氏による同大学の創新教育に関する講演がありました。特に、同大3年生による音声認識蛍光灯の作品の実演等に関心が集まりました。

「リーディング産業展みえ2006」

三重県内企業の技術や新製品などのほか、試験研究機関の研究成果を展示し、産学官の幅広い分野において情報提供することを目的とした標記産業展が、11月10-11日の2日間、四日市ドームで開催され、「情報通信」、「フラットパネルディスプレイ」、「エネルギー・環境」、「医療・健康・福祉」、「創造的技術」、「研究・支援・公的機関」の7ゾーンに延べ169グループから262ブースの展示がありました。また、例年は本学キャンパスで開催してきた創造研究開発センター主催の研究交流フォーラムも、「2006産学官研究交流フォーラム・オン・キャンパス」として本産業展に参加し、会場入口に近い一等地にブースを構えて、大学発の研究シーズの豊かさを6,236名の参加者に訴えました。



「実験動物感謝式」を挙行

11月14日、生命科学支援センター(センター長：鈴木宏治教授)主催で、本学医学部構内(医礎の庭)において「実験動物感謝式」が営まれました。センター長の式辞に続いて、動物実験に携わる全学の教職員・学生120余名が実験動物慰霊碑に献花を行い、医学の発展と生命科学の進歩のために供せられた動物に感謝の念と敬意を表しました。

大学院生物資源学研究科長を選出

大学院生物資源学研究科は、天野秀臣研究科長の任期満了に伴い、11月8日開催の生物資源学研究科教授会で、後任候補者に三井昭二教授を選出しました。任期は、平成19年4月1日より2年間です。

投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治(vpre-info@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》 編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾